

2. 屋内外の騒音源

2.1 屋外の騒音源

住まいを対象とした時に、屋外の騒音源としてまず頭に浮かぶのは、航空機、鉄道、自動車等の交通騒音でしょう。これ等の騒音源に囲まれる中で、静かな住まい環境をと考えるとすれば騒音源自体に対策を施すのが一番効果的です。しかし、騒音低減対策にもやはり限度があります。したがって、静かな環境を実現するためには、住まいの側でも遮音対策を行う必要があります。なんだか割り切れない面もありますけど。

屋外の騒音源といわれるものには、交通騒音以外にもまだまだ色々あります。子供達の遊び声、ちり紙交換、石焼き芋の売り声だって対象になります。このような音源であっても発生音側で十分な対策を、というのは無理な話です。やはり住まいの側で遮音対策が必要になってくることもあるでしょう。

最近では近隣騒音や生活騒音ということで、冷暖房機器やボイラーの運転音だけでなく、鳥カゴの小鳥のさえずりや、風鈴の音までが、騒音問題の対象になっています。でも、心配りが少し欲しい面もあります。軒先の風鈴は、夏が過ぎると次の夏までは収まわれるものだと思っていました。冬の風鈴はやはり気になります。田の蛙の声も、お寺の鐘の音もうるさいと問題になったことがあると記憶しています。これでは、お寺の鐘もつけません。何が騒音なのか皆で考える必要があります。

2.2 内部騒音源

私たちの生活も変わり、ピアノをはじめとして各種の楽器、ステレオなどが、生活の中にも多くみられるようになってきました。これは社会生活環境の中に音楽的教養を身につけよう、あるいは音楽を楽しもうという意識の変化が生じているものと考えて良いでしょう。しかし、困ったこともあります。楽器の演奏音は図-1に示すように大変に大きなパワーを持っています。現在の住まいの事情の中では、隣近所まで聞こえることになり近隣騒音の問題となることもしばしばです。とくに、集合住宅では隣戸にまで伝わる楽器の演奏音は、場合によっては深刻な問題を引き起こしています。

日常生活での屋内の騒音源は、楽器の演奏音だけでなく冷暖房機器・電気洗濯機などの家庭用設備機器、さらにはテレビ・ラジオの音も対象となります。

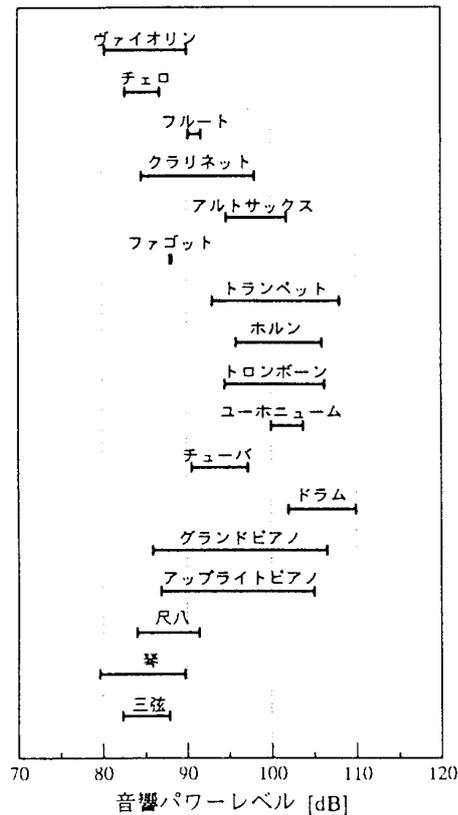


図-1 楽器の音響パワーレベルの変化範囲

また、これらの音は隣近所への問題ばかりでなく、家族がそれぞれ個室を持つようになると自分の家の中でも問題になり、程度の差こそあれ近隣騒音と同じ様な問題が現実起きています。これは家庭内のことですから音のトラブルとして表面化することはほとんどありませんが、住宅改修の際に重要なポイントになります。このような音に関する事柄が、住まいの新築や改修の際に取り上げられるようになったのは、そんなに古いことではありません。

昨今のように、音に関してのトラブルが増えてきたのは、隣近所との付き合い方が変わってきたのも一因だと思いますが、音の出るそれも大きな音の出るものが生活の中に多く取り入れられるようになってきたことの影響も大きいと思います。

少し昔の生活を振り返ってみてください。私たちの手にした楽器は、木の実、草の茎、草の葉の笛であり、手造りの篠竹の笛でありました。それこそちょっと手を加えればいろいろなものが楽器になりました。普通の家庭には本格的な楽器といわれるものはほとんど無かったのではないのでしょうか。

これからは、住宅の設計、改修には、どうしても現代の音響技術を取り込むことが必要になってきます。